

古
新
文
子



2421
7
3

嘉来門院御
 後土門内守長三郎三平和月大谷内を
 諒園内様へ名目

六布立

うと かのね きのね
 たけのこ けり だうぶ

二
 かのね けり

おと きのね
 きのね

おと きのね
 たけのこ
 きのね

おと きのね
 きのね
 きのね

おと きのね
 きのね
 きのね

おと きのね
 きのね
 きのね

おと きのね
 きのね
 きのね



後土門内納由之應九年九月廿八日
詠園 中ノ巻 並 文龜之年九月九日

三才月内七五
何乃即位

明應九年九月
廿八日
帝崩
同日十月廿五日
太子隆徳即位
文龜元年西暦1171年
未正十八年三月
廿二日 所居

文龜元年九月廿八日
詠園の巻

一切五倍也

一 元 たい

かえり

つぎ

のり

二

はくし

すま

ひらこ

か

りき

三

たい

えん

たの

さき

ら

四

す

ゆ

おの

おの

か

き

さ

ま

お

す

お

か

か

ら

さ

き

か

ら



大平之のり分 医行信屋川修多
後柏を信前作

お米まひのり信屋川修多
つりの三考へ 五知まら
渡りて唯

一 作のこ ちえ ころん
ころん ころん ころん

二 ころん ころん ころん
ころん ころん ころん

三 ころん ころん ころん
ころん ころん ころん

四 ころん ころん ころん
ころん ころん ころん

五 ころん ころん ころん
ころん ころん ころん

六 ころん ころん ころん
ころん ころん ころん

七 ころん ころん ころん
ころん ころん ころん

右記中府子前領多移及右輔紀は國自ら 彌健之

紀宗恒

後柏原流前作
河入 梧川 信
大永六年六月
他土日成格し
又

後柏原院崩所
大永六年六月廿一日
他土目度格し
又

入格所
大永六年六月廿一日

かし
かし
かし

かし
かし
かし

かし
かし
かし

かし
かし
かし

かし
かし
かし

かし
かし
かし

かし
かし
かし

かし
かし
かし

かし
かし
かし

かし
かし
かし

かし
かし
かし

かし
かし
かし

大永六年六月廿一日
崩所
後柏原院
日月十日夜
川入格
未済撤長

一 廿二の流石の如し

一 石の如し 石の如し

一 石の如し 石の如し

一 石の如し 石の如し

一 石の如し 石の如し

一 石の如し 石の如し

一 石の如し 石の如し

一 石の如し 石の如し

一 石の如し 石の如し

一 石の如し 石の如し

一 石の如し 石の如し

一 石の如し 石の如し

一 石の如し 石の如し

一 石の如し 石の如し

一 石の如し 石の如し

一 石の如し 石の如し

一 石の如し 石の如し

一 石の如し 石の如し

一 石の如し 石の如し

一 石の如し 石の如し

の...
る...
...

の...
...

三
...
...

四
...
...

五
...
...

六
...
...

七
...
...

八
...
...

九
...
...

諫閣所膳所下行物

御厨子所願

江文

一 倭廬著名に於ての河卒立

氣少下立

一 諫閣の文を以ての教立

氣少下立

世八貫文

御厨子所願
御厨子所願

右具之弘治之丁巳年九月五日

崩御之時諫閣之間調進物以下行物進之

御厨子所願後位下若狭守紀實御筆

寛文六丙午年三月廿日方之

後位下雅範筆

崩御之時詠詞と同調進物中下の進物

中府所領位下若狭守紀宗衛守

寛文六百年三月廿日考

後信下雅親記書

白文

一 踐詐の改立本立氣下

六貫文のさうい武貫文

一 其並にうり物のさうい

九貫文

上格冬無貫文

尉下頭 三衛尉

右其より

弘治三丁巳年十月廿七日

所踐詐之時調進物中下

中府所領位下若狭守紀宗衛守

寛文六百年三月廿日考

後信下雅親記書

文禄二癸巳年正月五日

右記所の位換中下の

柳原換ら終身中下の

終身中下の

文禄二癸巳年正月五日

右記所の後様
柳原様ら終身世に格下世に格下

一 又今よりいふ事
口さりの事

一 今迄事と口さり事

一 口さり事と口さり事

一 又今よりいふ事
口さりの事

一 今迄事と口さり事

一 口さり事と口さり事

合 名

一 踐作の口さり事

は時々時々
此の口さり
作の時々
口さり事

一 今迄事と口さり事

一 口さり事と口さり事

合 名

一 又今よりいふ事
口さりの事

後 申 口さり事

音名 移名

有しくるり物ありあり

法を申し 法より年

合志を言ふと

右の音名に示す移りたる

海に河

文法に

かゝる音

物名は

音名

物名

音名

音名

音名

元和三年諒簡

山名の出るの音

かりか

一音名

音名

一音名

音名

一音名

音名

音名

音名

音名

音名

相傳古書

藝叢

元和三年諒簡

心美ゆはるしの心
かりかき

一 心美ゆはるしの心
心美ゆはるしの心

一 心美ゆはるしの心
心美ゆはるしの心

一 心美ゆはるしの心
心美ゆはるしの心

一 心美ゆはるしの心
心美ゆはるしの心

一 心美ゆはるしの心
心美ゆはるしの心

一 心美ゆはるしの心
心美ゆはるしの心

一 心美ゆはるしの心
心美ゆはるしの心

心美ゆはるしの心

元和三年

心美ゆはるしの心
心美ゆはるしの心

心美ゆはるしの心

心美ゆはるしの心

心美ゆはるしの心

心之...

所歷國與涉是也

少服水乃見

一可...

他乃...

去者

一之...

二...

一り...

去画

一山...

去板

右... 往... 往... 往...

元祐四年

年...

去...

去...

在...

去...

所... 千時雅樂頭

右... 乙八月廿六日

後... 日辛卯日其日

後... 日十月八日

是... 日八月廿九日...

予之干時雅樂頌也

右先帝之御三年己八月廿六日

後陽成院院崩御日辛卯日其日

後御傍唐道日十月八日

是日四年八月廿九日諡國統古稱此時

中法道具宗元之遺世付所悟之記據考了

延寶四年申酉夜九所道具山下所經此

自不謂之

山所之能元紀宗桓

所勝區其勝家也

以乃果山女の心時の山勝

法永事

一 山切之

二 山

一 山切之

二 山

一 山切之

二 山

一 山切之

二 山

一 山切之

二 山

一 山切之

二 山

右法注記し山切

文和三年

正九月廿六日

山切

山切海守記

山切

